

株主のみなさまへ

..... Vol.58

株主通信 第117期

2023年1月1日～2023年12月31日



表紙:2023年7月 ジロ・デ・イタリア・ドンネ 2023 第6ステージの様子
表紙写真撮影者:Cor Vos





代表取締役社長

島野 泰三

事業の経過および成果

当連結会計年度におきましては、欧米を中心としたインフレ抑制のための金融引き締め政策は概ね終了する見込みがたったものの、ウクライナ情勢・中東情勢の混迷や中国経済の回復鈍化が景気の下押し要因となり、引き続き世界経済の回復基調は足踏み状態となりました。

欧州では、エネルギーコストや原材料価格の高騰収束の兆しが見えましたが、景気は力強さを欠きました。

米国では、インフレが緩やかに減速しFRBによる利上げ見送りが続くなか、良好な雇用環境と家計資産により押し上げられた個人消費が景気を下支えしました。

中国では、移動制限措置解除後の個人消費は反動の域を出ず、長引く不動産市場の低迷を受け、景気回復は力強さを欠きました。

日本では、経済活動が正常化するなか、インバウンド需要が回復した一方、物価高に賃金上昇が追いついておらず、個人消費が伸び悩んだことにより景気回復は緩やかにとどまりました。

このような環境の下、自転車、釣具への需要は引き続き弱含みであり、当連結会計年度における売上高は474,362百万円（前年同期比24.6%減）、営業利益は83,653百万円（前年同期比50.5%減）、経常利益は103,369百万円（前年同期比41.5%減）、親会社

株主に帰属する当期純利益は61,142百万円（前年同期比52.3%減）となりました。

自転車部品

自転車人気の過熱感は一服したものの、長期的なトレンドとして自転車への関心は高いまま継続しました。一方で、需給調整が続くなか、市場在庫は総じて高い水準で推移しました。

海外市場においては、欧州市場では、主要市場であるドイツやベネルクス諸国での自転車への高い関心は継続し、完成車の店頭販売は底堅く推移した一方、その他の国においては消費者需要がインフレや景気減速の影響も受けて冷え込み、市場在庫は高い水準で推移しました。

北米市場では、自転車への関心は底堅かったものの、サイクリングブームの反動もあり完成車の店頭販売は弱含みで推移し、市場在庫は依然高い水準で推移しました。

アジア・オセアニア・中南米市場では、自転車への関心は底堅かったものの、インフレの高進や経済不安の影響を受けて消費者マインドが冷え込み、完成車の店頭販売は低調に推移し、市場在庫は高い水準で推移しました。一方、中国市場では、アウトドアスポーツとしてのサイクリングの人気は継続し、ロードバイクを中心に販売は好調で、市場在庫は適正な水準を維持しました。

日本市場においては、円安による完成車価格の高騰や消費者の買い控えの影響を受けて店頭販売は低調となり、市場在庫は高めに推移しました。

このような市況の下、12段変速となった「105」やグラベル専用コンポーネント「SHIMANO GRX」などの新製品にご好評をいただきました。

この結果、当セグメントの売上高は364,679百万円（前年同期比29.5%減）、営業利益は65,251百万円（前年同期比55.0%減）となりました。

釣具

世界的な消費者動向の変化に伴い、釣具の需要は落ち着きを見せ、市場在庫が増加することとなり販売に少なからず影響を及ぼしました。

日本市場においては、コロナ禍が収束し、レジャーの選択肢が

多様化するなか、販売は鈍化しました。

海外市場においては、北米市場では、当初弱含みだった販売は、新製品に対する需要の高まりも手伝い、堅調に推移しました。

欧州市場では、一部地域での安定した需要に支えられていたものの、市場在庫の調整局面により、販売は力強さを欠きました。

アジア市場では、中国市場において販売は好調に推移しましたが、先行き不透明な景況感から消費者マインドが冷え込み、需要は鈍化する兆しを見せました。

豪州市場では、良好な釣況と安定した天候により、販売は堅調でした。

このような市況の下、新製品のスピニングリール「STRADIC」や最高級モデルのルアーロード「WORLD SHAULA」が高い評価を受けるとともに、引き続きスピニングリールの「VANQUISH」などの高価格帯製品に多くのご注文をいただきました。

この結果、当セグメントの売上高は109,225百万円（前年同期比1.6%減）、営業利益は18,413百万円（前年同期比23.8%減）となりました。

その他

当セグメントの売上高は457百万円（前年同期比4.6%減）、営業損失は11百万円（前年同期は営業利益1百万円）となりました。

期末配当のご報告

当社は、株主のみなさまに対する利益還元を経営上の重要課題と捉えており、安定的な配当の維持・継続とともに、業績の進展に応じた成果の配分を行うことを基本方針としております。この基本方針に基づき、今回の期末配当金につきましては、前年同期と同額の1株当たり142円50銭の配当とさせていただきます。これにより当期の年間配当額は、前期から25円増額の1株当たり285円となりました。

なお、次期の配当につきましては、1株当たり年間配当額285円（中間配当金142円50銭、期末配当金142円50銭）を予定しております。

今後の見通し

今後の見通しにつきましては、ウクライナ情勢の長期化、中東

情勢の緊迫化などの地政学リスクに起因する資源価格の高騰や物流の停滞がグローバルサプライチェーンの混乱をもたらし、更なる景気下押しの圧力となる可能性があります。また、2024年に予定されている主要国及び他地域での選挙結果や、各国の金利政策変更が景気に影響する可能性もあります。

欧米を中心とした金融引き締め収束の兆しが見える中、欧州ではインフレ率の低下や雇用環境の改善により、個人消費が回復し、緩やかな景気回復が見込まれる一方、米国では、2024年の大統領選の影響により、景気が左右されることも懸念されます。

中国では、不動産市場の長期的な低迷から景気回復は力強さを欠く恐れがあります。

日本では、賃上げや政府の経済対策などが経済活動の正常化を下支えし、緩やかな景気回復が見込まれるものの、国際情勢の不安定化や政府の金融政策の転換が影響する可能性もあります。

このような経営環境のなか、当社は、自転車や釣具に対する需要動向を注視しつつ、お客様の視点にそった高品位で魅力的な製品を提供する、日本発の「開発型デジタル製造業」として、多くの人々に感動していただける「こころ躍る製品」の開発・製造に邁進することはもとより、企業と社会の共有価値を創造し続ける「価値創造企業」として、一步一步、前進していくことが大切であると考えております。経営効率のさらなる向上を図り、より豊かで、新たな自転車文化、釣り文化の創造を促進し、サステナブルな成長を目指してまいります。その結果、2024年12月期の連結業績予想は以下のとおりいたします。

	2024年12月期	前年同期比
売上高	4,200億円	11.5%減
営業利益	530億円	36.6%減
経常利益	730億円	29.4%減
親会社株主に帰属する当期純利益	540億円	11.7%減

株主のみなさまにおかれましては、今後ともなにとぞ変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2024年3月

自転車部品事業



より多くの人へ
快適なライドを届けるために——
「シューズ」に注ぐ、ものづくりの情熱

フラッグシップシリーズ「S-PHYRE」より “妥協を許さないパフォーマンス”を受け継ぐ3モデルが新登場



2024年、フットウェアのフラッグシップシリーズ「S-PHYRE（エス・ファイア）」より、トラックレース、クロスカントリーのニューモデルが登場します。さらにトライアスロン用シューズは同シリーズで初のラインナップとなり、すでに発売されているロードレース用とあわせて4種目のアイテムが並びました。

「妥協を許さないパフォーマンス」をコンセプトに掲げる「S-PHYRE」シリーズは、高いフィット感とペダリング効率を両立させたシマノを代表するシューズです。その存在感は、世界を代表するロードレース「ツール・ド・フランス」でも顕著に見られます。シマノがスポンサーを務めるチーム選手はもちろん、それ以外の

選手の多くが着用することから、「S-PHYRE」に対する信頼の高さがうかがえます。

パフォーマンスを最大限引き出すコンポーネンツと同様に、身に着けることで快適なライドをサポートする“オン・ボディ”アイテムの存在も必要不可欠です。特にシューズにおいては、ライダーのペダリングを支える点でも重要な役割を担っています。プロ・アマチュアにかかわらず、より多くのユーザーへ快適なライドを提供するために、「S-PHYRE」は高い基準でものづくりが行われています。

クオリティを支える「プロの声」と ユーザー視点に立った「競技最適化」



そのクオリティを支える最も重要な要素は、プロレーサーからのフィードバックです。「S-PHYRE」が最も評価される理由の一つである「高いフィット感」も、彼らの厳しい要求のもとに生み出されています。様々な要望を形にしていくため、設計者の意図を反映できる自社工場でものづくりを徹底し、素材の選定、パーツ配置や形状の検討、厳しい試験を経て、プロが認める「一足」が誕生しています。

また、各サイクリング競技に最適化したシューズを作ることができる点もシマノの強みです。メーカーの多くが代表的なロードレースやマウンテンバイク大会に特化したシューズを作っているのに対し、シマノでは様々な種目、使い方に合わせた製品を提供しています。今回発表した「S-PHYRE」シリーズにおいても、各競技の特性に合わせたスペックがそれぞれに備わっています。

パワーを要するトラック用「RC903PWR」ではアッパーにペロ（シュータン）を一体化させることで全体の安定感を高め、砂場や林間などのオフロードを走るクロスカントリー用の「XC903」では、外部衝撃によってクロージャー※が外れてしまうのを防止するシールドを設置。トライアスロン用の「TR903」では、前後の競技（スイム・ラン）の移行をスムーズに行うことができる素早い着脱を可能にしています。

世界の大舞台で活躍する選手たちが着用することで存在感を示す“スポーツマーケティング”の側面においても、「S-PHYRE」の役割は期待されています。より多くのライダーの快適なライドをサポートするため、わたしたちのものづくりに対する情熱が尽きることはありません。

※フィット感や締めつけを調整するダイヤル部分のこと

釣具事業

剛性と実釣性能に磨きをかけた 新「ツインパワー」



TWIN POWER

シマノのリールにおいて最も長い歴史を持つ「ツインパワー」。2020年以来4年ぶりとなるリニューアルを行い、新たな進化を遂げました。

ブランドコンセプト「質実剛健」を改めて問う形でブラッシュアップをはかった今回。スピニングリール屈指の剛性を誇りつつ、「信頼して使える性能」をより突き詰めることを目指しました。

大きなポイントは、フラッグシップモデル「ステラ」にも採用され、高い評価を得ている機能「インフィニティテクノロジー」の搭載です。剛性に加え、巻きの軽さや耐久性、トラブルレス性能も向上しました。また、金属とカーボン樹脂素材「CI4+」を組み合わせることで、高い剛性を確保しつつ快適な使用感につながる軽さを実現しました。

「質実剛健」を再定義し、実釣性能を高めた「ツインパワー」。より多くの方に釣りの楽しさを味わっていただく一助となるよう、これからも努めてまいります。

リアルイベントが本格始動 全国各地で釣り体験の機会をより多く

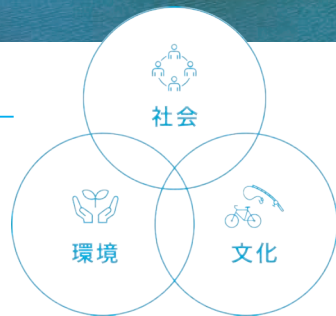
2023年下半年は、各地開催のリアルイベントを本格的に再開しました。ヒラメ釣り大会「ネッサライブ」では北海道と鹿児島県、イカ釣り大会「セフィア エギングパーティー」では新潟県をそれぞれ新たな開催地として設定し、幅広い地域の方にご参加いただきました。初の試みである「鮎入れ掛かりフェス」は、人気インストラクターによる鮎釣りレクチャーや製品体験など、経験者の方にも初心者の方にも鮎釣りを楽しんでもいただける場となりました。今後もより幅広い地域やユーザー層に楽しんでいただける、様々なイベント開催に取り組んでまいります。





シマノトリコロールプロジェクト

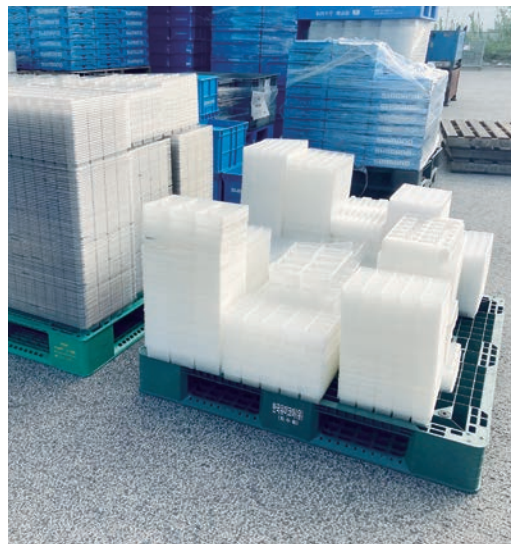
シマノトリコロールプロジェクトでは、「人と自然のふれあいの中で、新しい価値を創造し、健康とよろこびに貢献する」という当社のミッションに則り、環境・社会・文化というテーマで持続可能な社会の実現に向けた様々な取り組みを継続してまいります。



プロジェクトニュース

環境

プラスチック資材のリデュース・リユース・リサイクルを推進



当社ではプラスチック資材のリデュース・リユース・リサイクルを推進し、資源循環を積極的に進めています。代表的な例として、自転車の消耗交換部品や釣り竿のプラスチック梱包材のリデュース、プラスチックパレットのリユース、物資梱包資材（PE、PP、PS、PETなど※1）や製造工程から排出されるプラスチックのマテリアルリサイクル※2を行っています。今後も開発型デジタル製造業としてのものづくりに対する責任を持ち、資源循環を進め、持続可能な社会の実現に貢献するための活動を進めてまいります。

※1 左からポリエチレン、ポリプロピレン、ポリスチレン、ペット
※2 廃棄物を溶かすなどして、素材を回収し再利用すること

世界を支える地域統括会社として さらなる飛躍を



2023年5月、シマノシンガポールが創業50周年を迎え、新工場であるShimano Singapore Intelligent Plant (SSIP) が正式に稼働開始しました。

当社初の海外生産拠点として、1973年に設立されたシマノシンガポール。創業当初より、ロードバイクやマウンテンバイク、アーバンスポーツバイクなど、自転車に搭載されるコンポーネントを製造するとともに、世界の子会社を支える地域統括会社としての重要な役割を担っています。

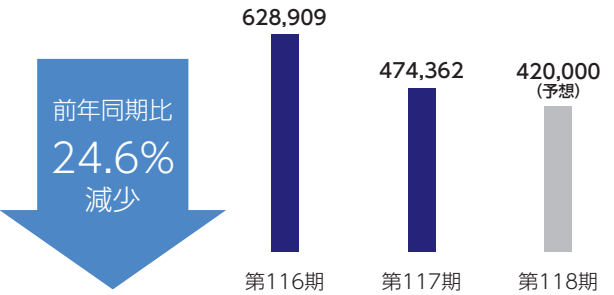
50年の歴史において3つの経営テーマ「柔軟性を持った生産拡大とコスト競争力の獲得」「東南アジアにおける、自転車市場・釣具市場の販路拡大」「アジアにおける地域統括会社として、生産の知識集約と展開」を掲げ、社員一丸となって歩みを進めてまいりました。今後は最新デジタル技術をより積極的に活用し、業務や組織に変革を起こしながら存在価値を高め、成果の最大化につなげてまいります。

今後も一層こころ躍る製品を展開するとともに、さらなる文化創造を行ってまいります。

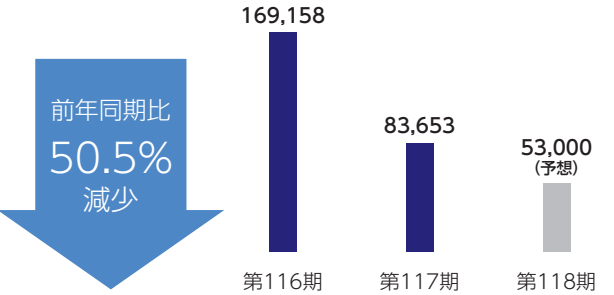


2023年5月12日に執り行われた50周年記念パーティーの様様。SSIPの立ち上げに携わってくださった政府関係者や建設関係者など、様々なご来賓をお招きし、代表取締役社長の島野泰三、シマノシンガポール社長の Chia Chin Seng より挨拶を申し上げました。

■ 連結売上高



■ 連結営業利益

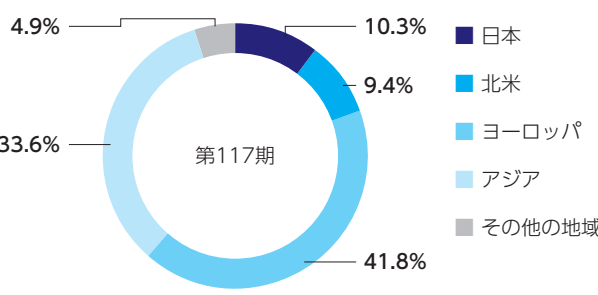


■ 地域別売上高の状況

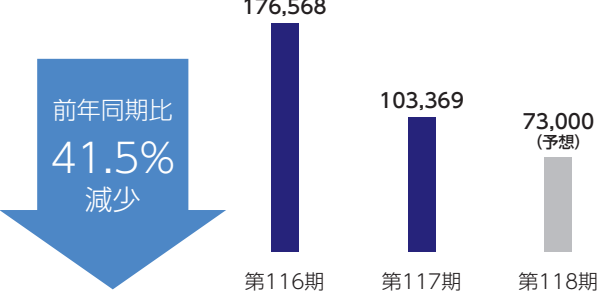
(単位：百万円)

	第116期	第117期
日本	54,383	48,713
北米	57,643	44,679
ヨーロッパ	299,934	198,432
アジア	191,479	159,150
その他の地域	25,468	23,386

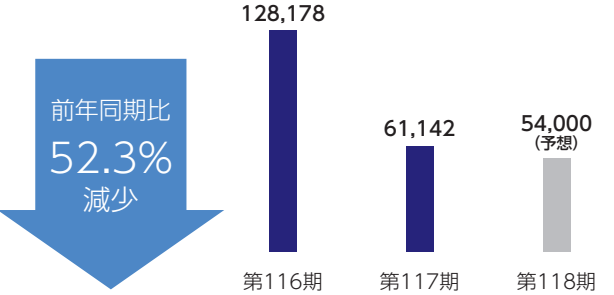
■ 地域別売上高比率



■ 連結経常利益



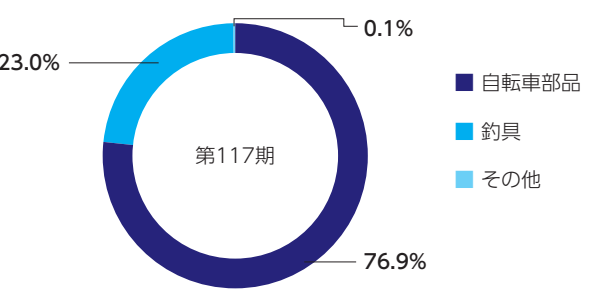
■ 親会社株主に帰属する当期純利益



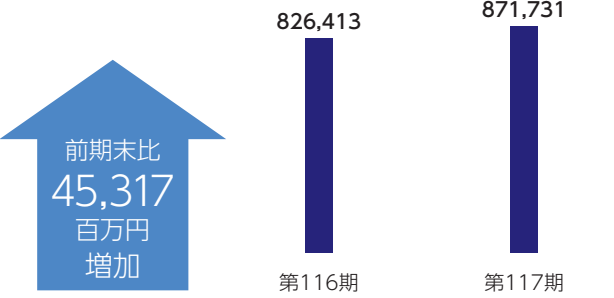
■ セグメント別売上高と営業利益の状況

第117期	売上高 (単位：百万円)	増減率 (前年同期比)	営業利益 (単位：百万円)	増減率 (前年同期比)
自転車部品	364,679	△29.5%	65,251	△55.0%
釣具	109,225	△1.6%	18,413	△23.8%
その他	457	△4.6%	△11	—%

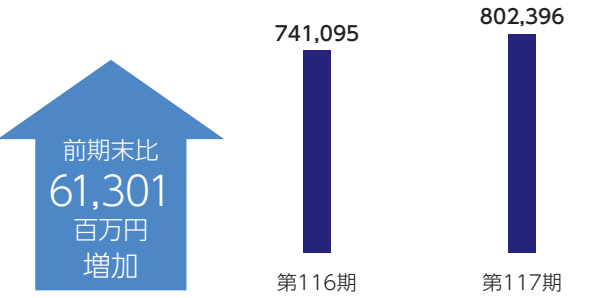
■ セグメント別売上高比率



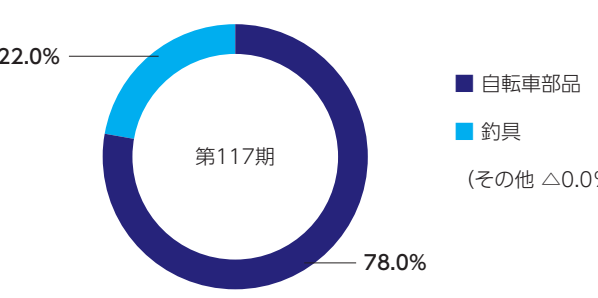
■ 連結総資産



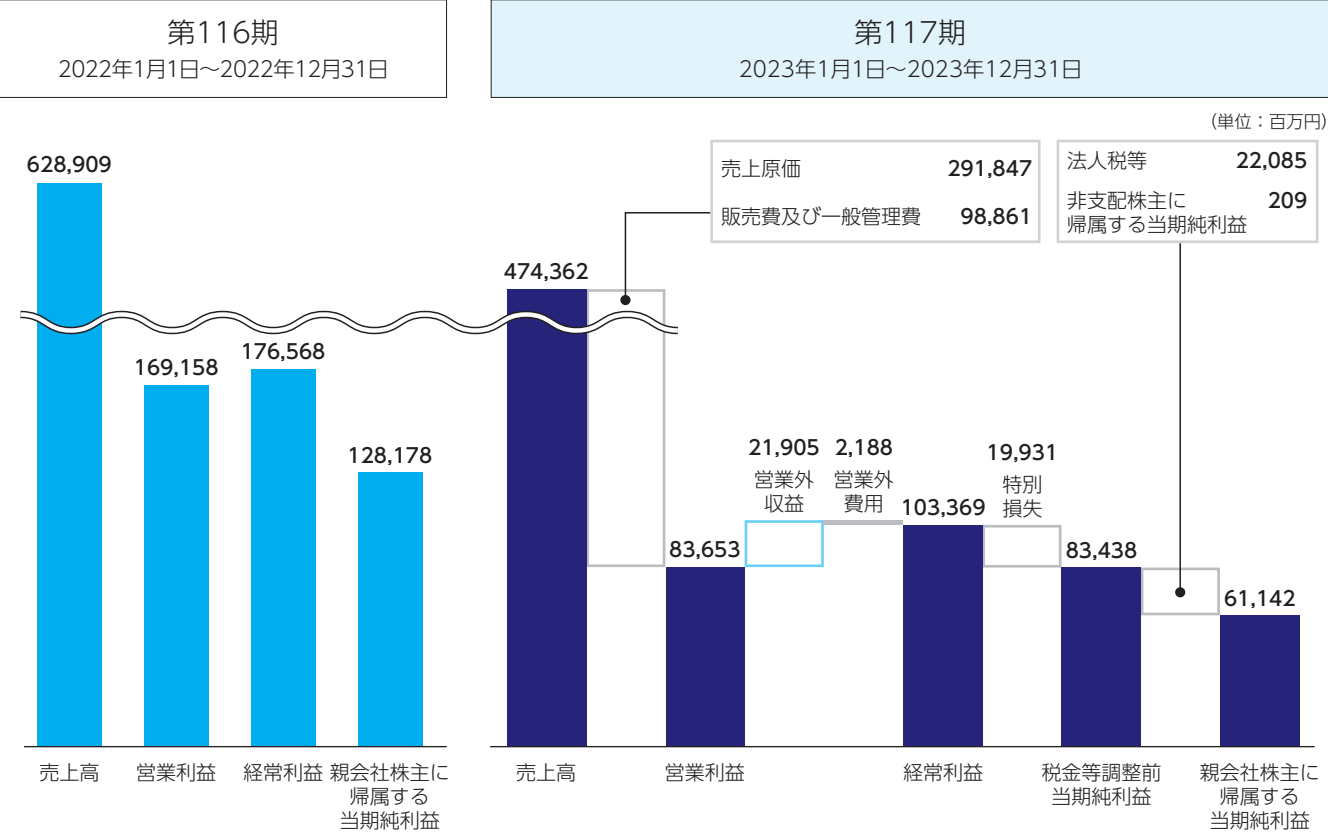
■ 連結純資産



■ セグメント別営業利益比率



■ 連結損益計算書（要約）



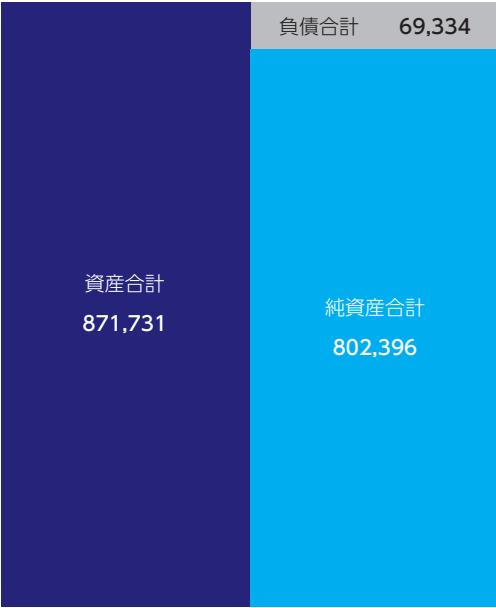
第118期予想（連結）

	業績予想	
売上高	4,200億円	前年同期比 11.5%減
経常利益	730億円	前年同期比 29.4%減
親会社株主に帰属する当期純利益	540億円	前年同期比 11.7%減

	セグメント別売上高予想	
自転車部品	3,250億円	前年同期比 10.9%減
釣具	945億円	前年同期比 13.5%減
その他	5億円	前年同期比 9.2%増

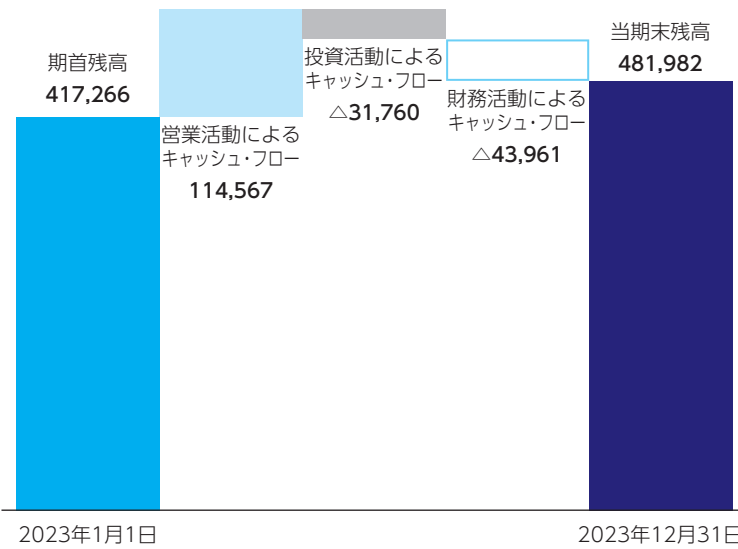
■ 連結貸借対照表（要約）

第117期末 2023年12月31日現在
(単位：百万円)



■ 連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

第117期 2023年1月1日～2023年12月31日
(単位：百万円)

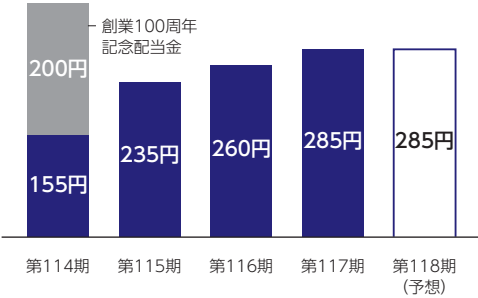


(注) 現金及び現金同等物に係る換算差額については記載を省略しております。
それにより生じるグラフの誤差については調整しております。

年間配当金の推移

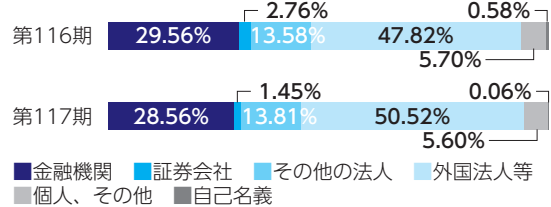
当社は、株主のみなさまに対する利益還元を経営上の重要課題と捉えており、安定的な配当の維持・継続とともに、業績の進展に応じた成果の配分を行うことを基本方針としております。この基本方針に基づき、今回の期末配当金につきましては、前年同期と同額の1株当たり142円50銭の配当とさせていただきます。これにより当期の年間配当額は、前期から25円増額の1株当たり285円となりました。

なお、次期の配当につきましては、1株当たり年間配当額285円（中間配当金142円50銭、期末配当金142円50銭）を予定しております。

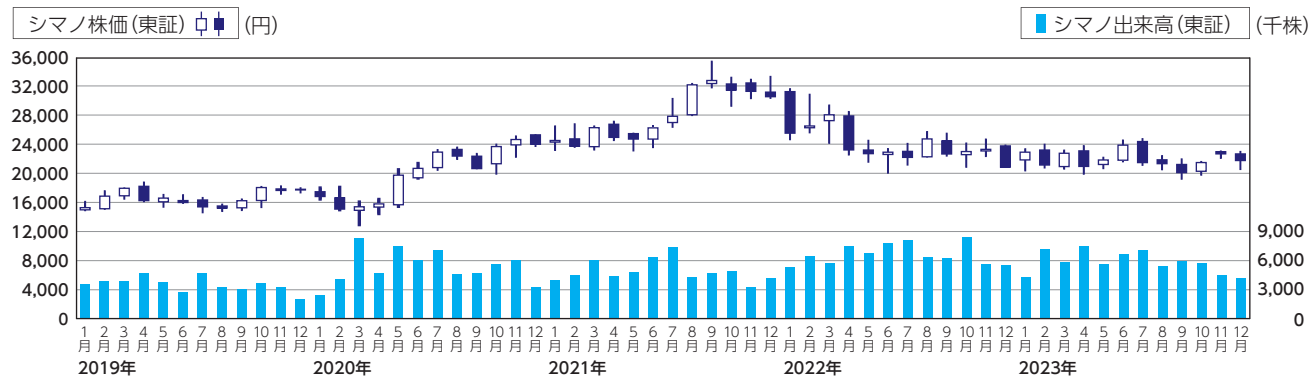
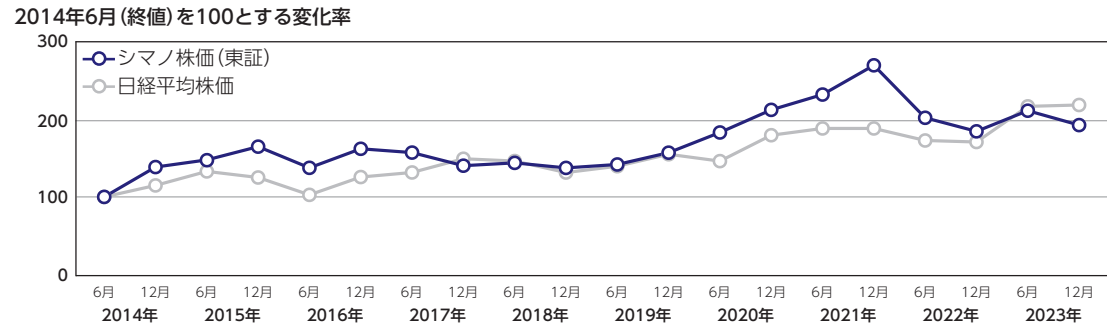


- 発行可能株式総数 262,400,000株
- 発行済株式の総数 90,022,000株
- 株主数 9,915名
- 単元株式数 100株

所有比率



株価チャート



大株主（上位10名）

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	10,587	11.77
湊興産株式会社	7,864	8.74
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	5,092	5.66
JP MORGAN CHASE BANK 380055	3,469	3.86
株式会社スリーエス	2,171	2.41
日本生命保険相互会社	1,801	2.00
株式会社りそな銀行	1,711	1.90
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	1,459	1.62
JP MORGAN CHASE BANK 385632	1,441	1.60
STATE STREET BANK WEST CLIENT – TREATY 505234	1,389	1.54

(注) 持株比率は自己株式（56,027株）を控除して計算しております。

社名	株式会社シマノ
英文社名	SHIMANO INC.
創業年月	1921年2月
設立年月	1940年1月
資本金	35,613百万円
従業員数	1,651名
事業内容	自転車部品、釣具、 ロウイング関連用品等の製造販売
本社	〒590-8577 大阪府堺市堺区老松町3丁77番地
URL	https://www.shimano.com

役員

代表取締役会長兼CEO	島野 容 三	上 席 執 行 役 員	清 谷 欣 司
代表取締役社長	島 野 泰 三	執 行 役 員	大 津 智 弘
代表取締役副社長	豊 嶋 敬	執 行 役 員	大 竹 正 浩
代表取締役副社長	津 崎 祥 博	執 行 役 員	吉 田 保
常 務 取 締 役	チア チン セン	執 行 役 員	金 井 琢 磨
社 外 取 締 役	一 條 和 生	執 行 役 員	中 野 敬 介
社 外 取 締 役	勝 丸 充 啓	執 行 役 員	赤 川 満
社 外 取 締 役	榊 原 定 征	執 行 役 員	島 野 豪 三
社 外 取 締 役	和 田 浩 美	執 行 役 員	島 野 勇 三
常 勤 監 査 役	平 田 義 弘		
常 勤 監 査 役	樽 谷 潔		
社 外 監 査 役	野 末 佳 奈 子		
社 外 監 査 役	橋 本 敏 彦		

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで	株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
定時株主総会	3月	株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号
基準日	期末配当金 毎年12月31日 中間配当金 毎年 6月30日	事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
単元株式数	100株	郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
公告方法	電子公告 当社のホームページに掲載いたします。 (https://www.shimano.com/jp/ir/electronic.html) ただし、やむを得ない事由によって電子公告による ことができない場合は、日本経済新聞 に掲載いたします。	電話照会先	☎ 0120-782-031 受付時間 9:00～17:00（土日休日を除く）
		ホームページURL	https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency
		よくあるご質問 （FAQ）	https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal お手続き方法やよくあるご質問は、上記「よくあるご質問 (FAQ)」サイトで確認いただけます。
		証券コード	7309